

# 第2章

## 芦屋市の現状

第2章

### 1 人口・世帯等の状況

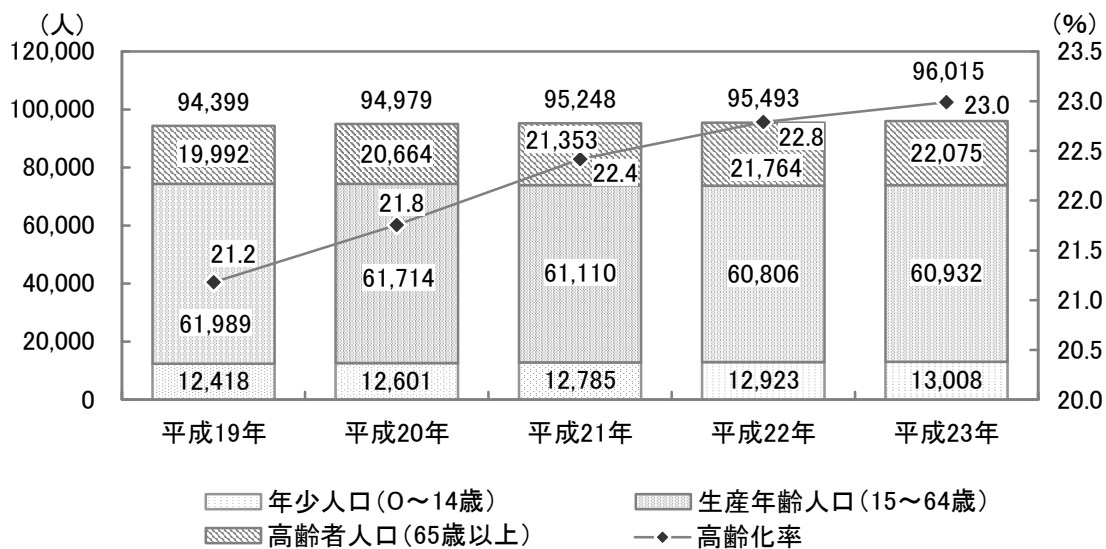
#### (1) 年齢3区分別人口の推移

総人口は平成19年から緩やかに増加を続けており、平成23年には96,015人となっています。

年齢3区分別人口は、年少人口（0～14歳）、高齢者人口（65歳以上）ともに増加しており、生産年齢人口（15～64歳）は平成22年まで減少を続けていましたが、平成23年に増加に転じています。

年少人口は増加しているものの、高齢化率は年々増加傾向にあります。

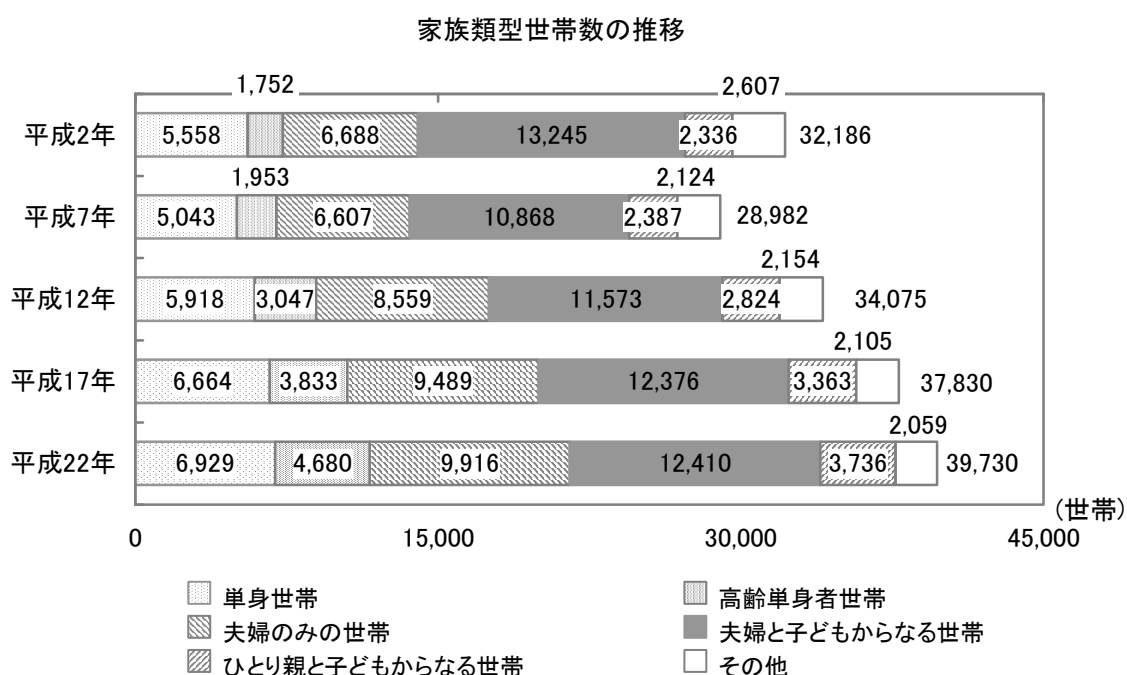
総人口・年齢3区分別人口と高齢化率の推移



資料：住民基本台帳，外国人登録（各年10月1日）

## (2) 世帯の状況

一般世帯数は平成7年以降増加が続いており、平成22年には39,730世帯となっています。平成22年の一般世帯数のうち65.6%は核家族世帯が占めていますが、平成2年からの推移をみると、この割合は減少しています。また、単独世帯数は平成7年以降増加しており、特に高齢単身者世帯の増加が著しくなっています。



資料：国勢調査

### 核家族世帯，単独世帯の世帯数の推移

単位：世帯

	総数	一般世帯数					単独世帯
		核家族世帯				単独世帯	
	総数	夫婦のみ	夫婦と子ども	男親と子ども	女親と子ども		
平成2年	32,186	22,269	6,688	13,245	325	2,011	7,310
平成7年	28,982	19,862	6,607	10,868	353	2,034	6,996
平成12年	34,075	22,956	8,559	11,573	382	2,442	8,965
平成17年	37,830	25,228	9,489	12,376	418	2,945	10,497
平成22年	39,730	26,062	9,916	12,410	416	3,320	11,609

資料：国勢調査

\*単独世帯とは、単身世帯と高齢単身者世帯を足し合わせたものとなっています。





世帯の状況（平成 22 年）

			一般世帯数 (世帯)	一般世帯数 構成比 (%)	6 歳未満親 族のいる一 般世帯数 (世帯)	18 歳未満親 族のいる一 般世帯数 (世帯)	65 歳以上親 族のいる一 般世帯数 (世帯)
総数			39,730	100.0	3,954	9,257	14,719
親 族 世 帯	核 家 族 世 帯	総数	26,062	65.6	3,738	8,607	8,540
		夫婦のみ	9,916	25.0	-	-	5,173
		夫婦と子ども	12,410	31.2	3,578	7,614	1,876
		男親と子ども	416	1.0	11	67	205
		女親と子ども	3,320	8.4	149	926	1,286
	夫婦と親	308	0.8	-	-	295	
	夫婦と親と子ども	569	1.4	108	284	520	
	その他の親族世帯	918	2.3	100	327	599	
	単独世帯	11,609	29.2	-	19	4,680	
その他			264	-	-	-	-

資料：国勢調査

(3) 高齢者世帯の状況

65 歳以上親族のいる一般世帯数は平成 2 年以降増加が続いており、平成 22 年には 14,719 世帯となっています。一般世帯数（39,730 世帯）に対する割合は、37.0%となっており、推移をみると年々増加しています。

また、65 歳以上の単独世帯数についても平成 2 年以降増加が続いており、平成 22 年には 4,680 世帯となっています。

65 歳以上の親族のいる一般世帯数及び構成比の推移

	一般世帯総数 (世帯)	65 歳以上親族のいる一般世帯		65 歳以上の単独世帯（再掲）	
		世帯数（世帯）	構成比 (%)	世帯数（世帯）	構成比 (%)
平成 2 年	32,186	7,873	24.5	1,752	5.4
平成 7 年	28,982	8,225	28.4	1,953	6.7
平成 12 年	34,075	10,888	32.0	3,047	8.9
平成 17 年	37,830	12,758	33.7	3,833	10.1
平成 22 年	39,730	14,719	37.0	4,680	11.8

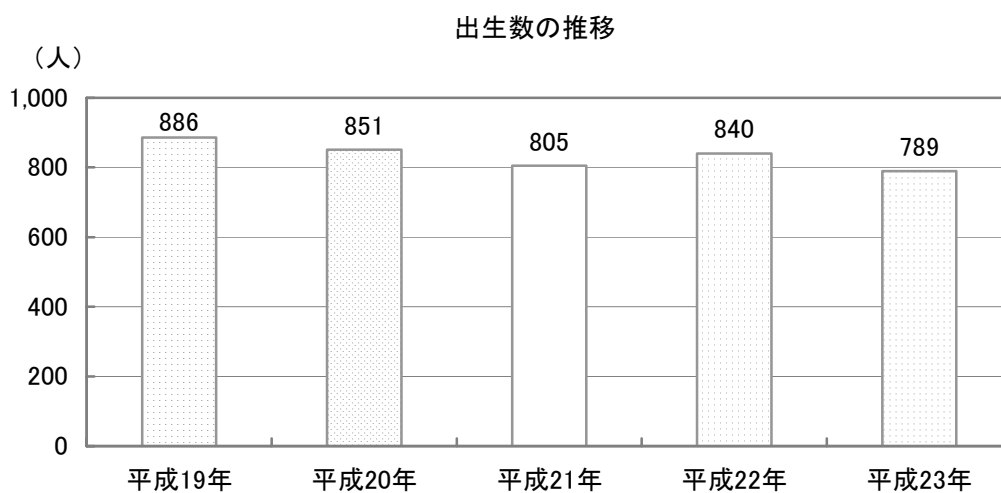
資料：国勢調査

## 2 出生の状況

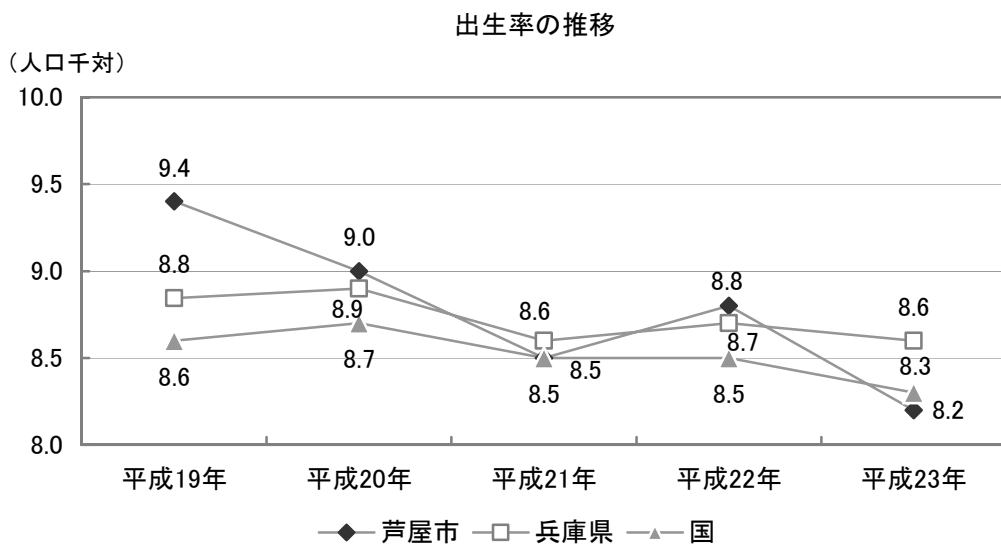
### (1) 出生数と出生率の推移

出生数は、平成22年を除き、平成19年から減少傾向にあります。

出生率については、平成23年では国と県を下回り、8.2となっています。



資料：兵庫県保健統計年報



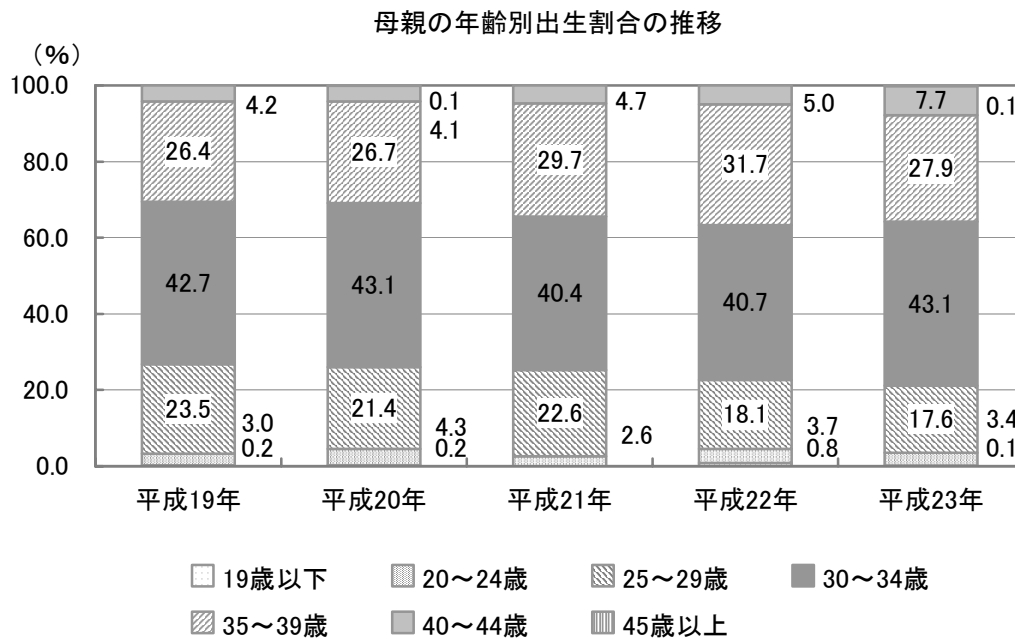
資料：兵庫県保健統計年報





## (2) 母親の年齢別出生割合

母親の年齢別出生割合をみると、高齢出産といわれる35歳以上の出生の割合は、増加傾向にあり、35～39歳の出生の割合については、平成19年から平成23年にかけて、26.4%から27.9%と1.5ポイント高くなっています。



資料：兵庫県保健統計年報

母親の年齢別出生割合の推移

単位：%

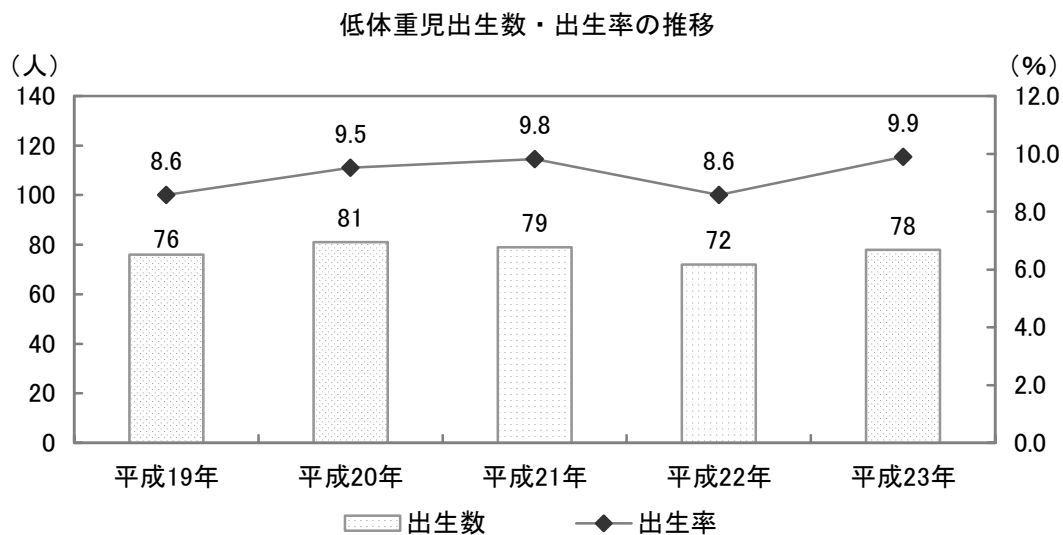
	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
19歳以下	0.2	0.2	0.0	0.8	0.1
20～24歳	3.0	4.3	2.6	3.7	3.4
25～29歳	23.5	21.4	22.6	18.1	17.6
30～34歳	42.7	43.1	40.4	40.7	43.1
35～39歳	26.4	26.7	29.7	31.7	27.9
40～44歳	4.2	4.1	4.7	5.0	7.7
45歳以上	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1

資料：兵庫県保健統計年報

\*割合については、四捨五入をしているため、すべてを足し合せて100%にならないことがあります。

### (3) 低体重児（2,500g未満）出生数の推移

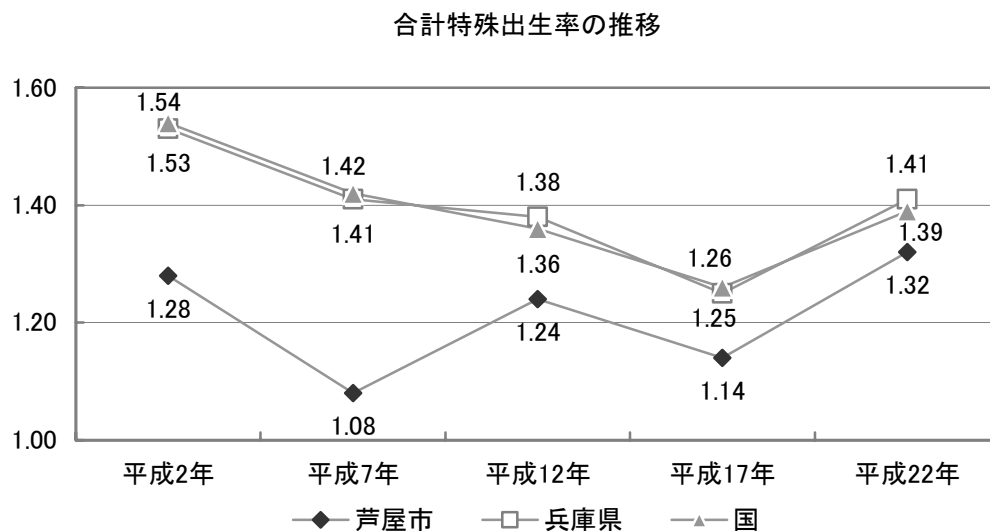
低体重児の出生数は、平成20年以降減少傾向にあり、平成23年は78人となっています。全体出生数に占める低体重児出生数の割合は、平成23年において9.9%となっています。



資料：兵庫県保健統計年報

### (4) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率\*は、国や県を下回っていますが、平成17年から平成22年にかけて0.18高くなっており、国や県と同様の傾向がみられます。



資料：兵庫県保健統計年報



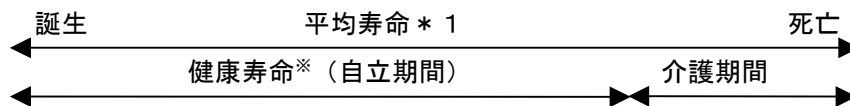


## (5) 平均寿命と健康寿命

平均寿命<sup>\*</sup>は、平成17年で男性79.4歳、女性86.1歳となっており、平成7年以降、男女ともに延伸傾向にあります。

健康寿命<sup>\*</sup>は、男性80.19歳、女性84.01歳でともに県や国に比べ長くなっています。平成22年の65歳の平均自立期間は、男性で18.34年、女性で21.07年、平均介護期間は男性で1.46年、女性で3.25年となっています。女性の平均自立期間、平均介護期間ともに男性に比べ長くなっています。平均介護期間は、男女ともに県や国に比べ短くなっています。

平均寿命と健康寿命のイメージ



平均寿命の推移

単位：歳

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
男性	芦屋市	77.6	74.0	78.5	79.4
	兵庫県	75.6	75.5	77.6	78.7
	国	75.9	76.4	77.7	78.8
女性	芦屋市	82.0	79.4	84.7	86.1
	兵庫県	81.6	81.8	84.3	85.6
	国	81.9	82.9	84.6	85.8

資料：兵庫県保健統計年報

健康寿命、65歳における平均余命、平均自立期間、平均介護期間（平成22年）

	芦屋市 * 3		兵庫県 * 3		全国	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
健康寿命（歳）	80.19	84.01	78.47	83.19	78.17	83.16
平均余命 * 2（年）	19.80	24.32	18.95	23.83	18.86	23.89
平均自立期間（年）	18.34	21.07	17.38	20.47	17.23	20.49
平均介護期間（年）	1.46	3.25	1.57	3.36	1.63	3.41

男性 80.19歳（79.57～80.80 \* 4） 女性 84.01歳（83.52～84.49 \* 4）

\* 1 平均寿命：0歳の平均余命

\* 2 平均余命：基準となる年の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が平均的に今後何年生きられるかという期待値を表したもの

\* 3 芦屋市と兵庫県の値：平成21～23年度の介護保険データを用い、県により算定（市町値は参考値）（平成24年9月厚生労働省公表「健康寿命の算定方法の指針」に準拠した算定方法による）

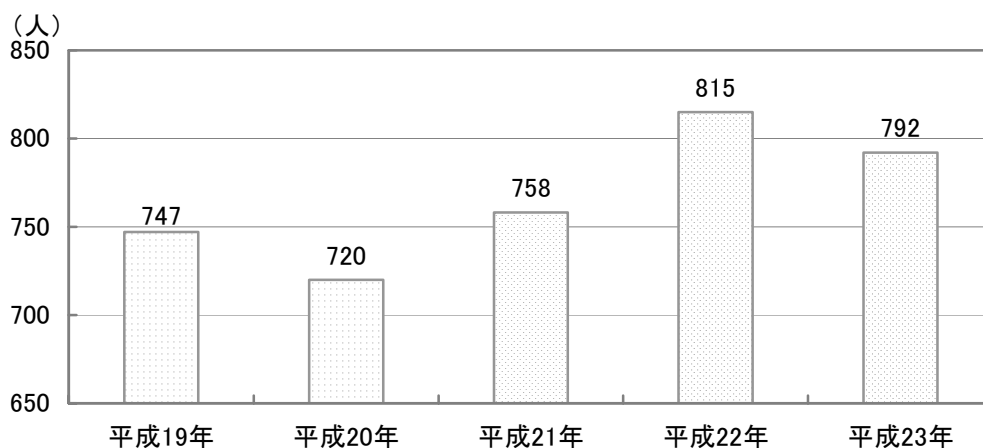
\* 4 95%信頼区間：95%の確率で芦屋市における健康寿命<sup>\*</sup>の平均値が含まれるような範囲

### 3 死亡の状況

#### (1) 死亡数と死亡率の推移

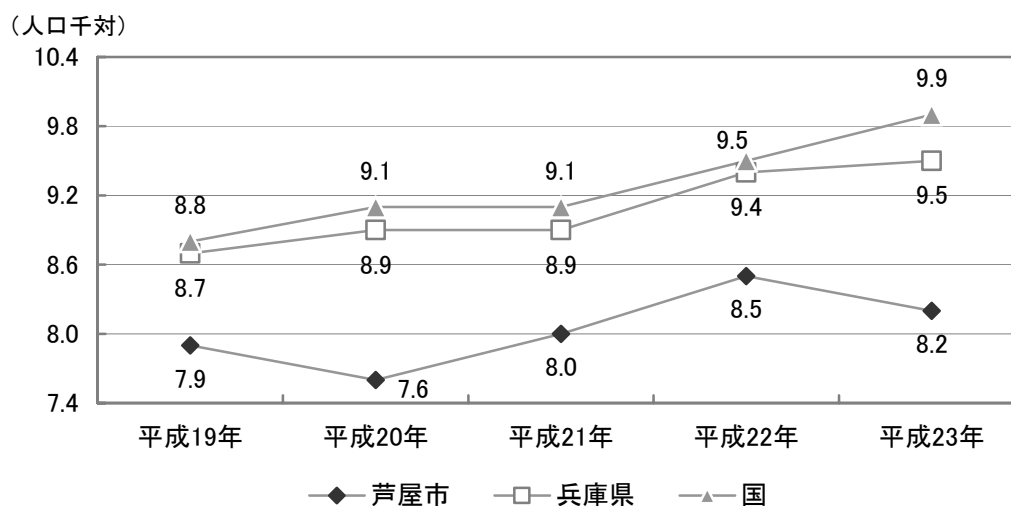
死亡数は、平成20年以降増加傾向にあり、平成23年には792人となっています。また、死亡率は平成19年以降、国と県を下回っています。

死亡数の推移



資料：兵庫県保健統計年報

死亡率の推移



資料：兵庫県保健統計年報







## (2) 主要死因別死亡状況

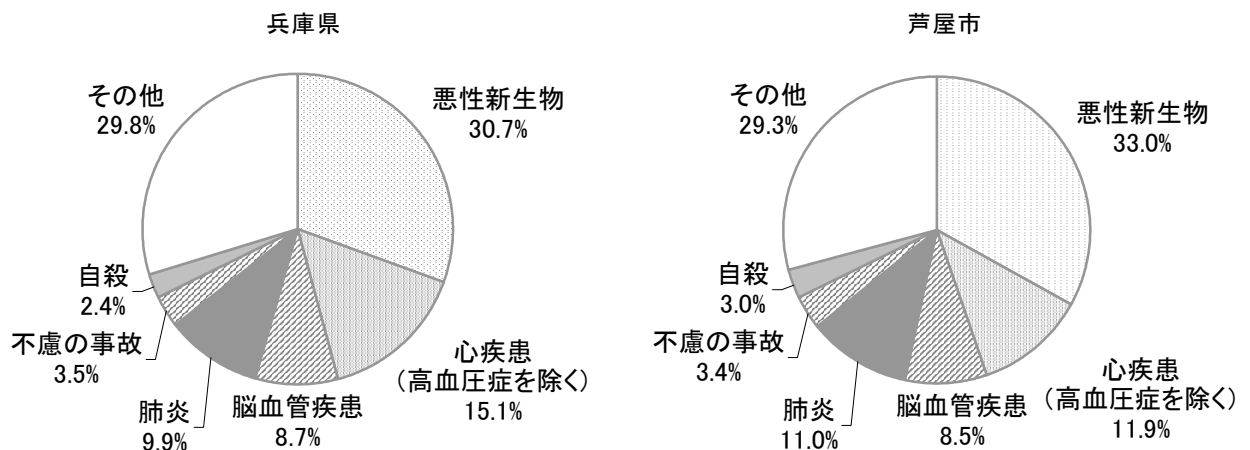
平成23年の主要死因別で死亡の第1位は悪性新生物\*となっており、約3割を占めています。また、第2位は心疾患\*（高血圧症\*を除く）、第3位は肺炎、第4位は脳血管疾患\*となっています。悪性新生物\*、心疾患\*（高血圧症\*を除く）、脳血管疾患\*をあわせた生活習慣病\*に関連した死亡は全体で53.4%を占めています。平成19年以降、生活習慣病\*に関連した死亡割合は減少しています。

主要死因別死亡件数及び割合の推移

	平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		平成23年	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
悪性新生物	274	36.7	242	33.6	257	33.9	257	31.5	261	33.0
心疾患（高血圧症を除く）	100	13.4	107	14.9	108	14.2	105	12.9	94	11.9
脳血管疾患	69	9.2	70	9.7	56	7.4	83	10.2	67	8.5
肺炎	70	9.4	59	8.2	70	9.2	93	11.4	87	11.0
不慮の事故	23	3.1	27	3.8	33	4.4	17	2.1	27	3.4
自殺	13	1.7	17	2.4	15	2.0	17	2.1	24	3.0
その他	198	26.5	198	27.5	219	28.9	243	29.8	232	29.3
総死亡数	747	100.0	720	100.0	758	100.0	815	100.0	792	100.0

資料：兵庫県保健統計年報

主要死因別死亡割合（平成23年）

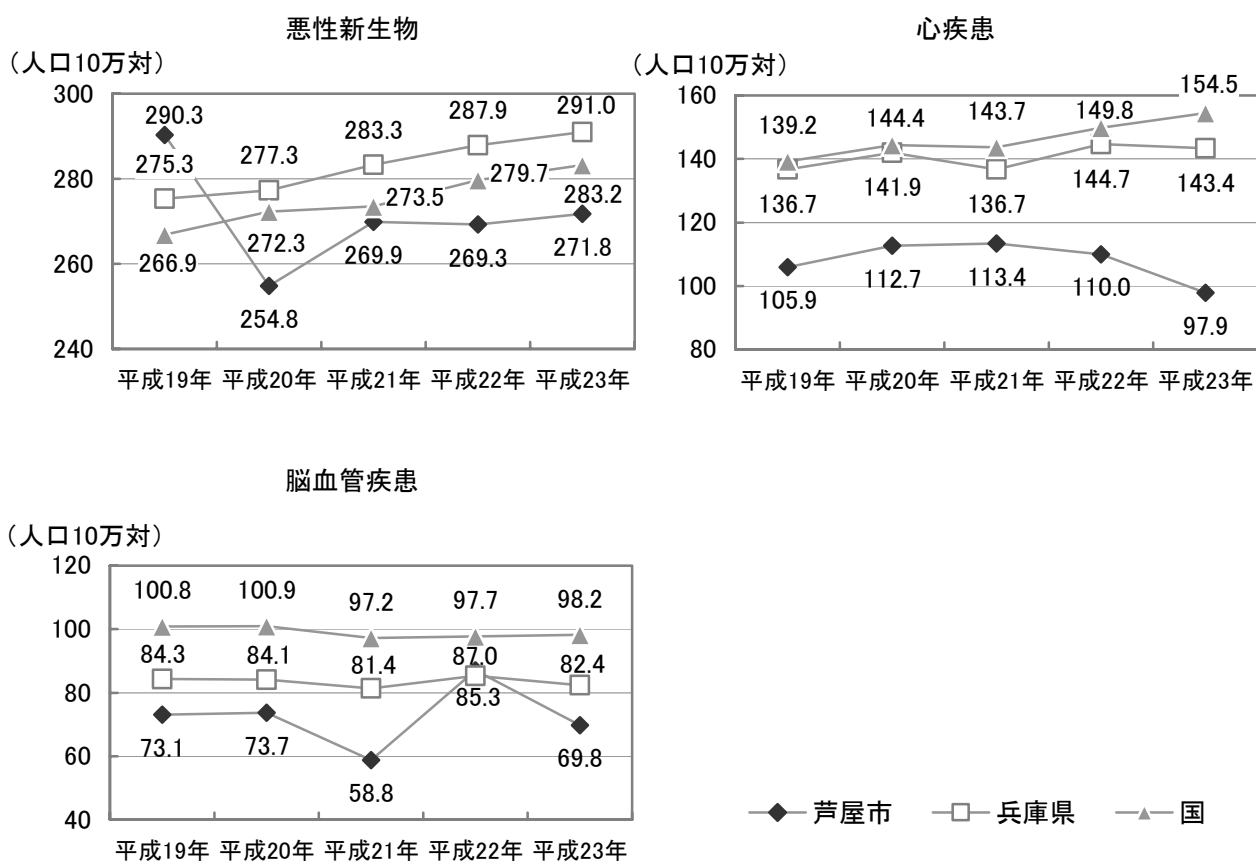


資料：兵庫県保健統計年報

\*割合については、四捨五入をしているため、すべてを足し合せて100%にならないことがあります。

三大死因別死亡率は、悪性新生物\*で増加傾向があり、心疾患\*で減少傾向がみられます。また、国や県と比較すると、平成19年の悪性新生物\*を除き、死亡率が低くなっています。

### 三大死因別死亡率の推移



資料：人口動態統計



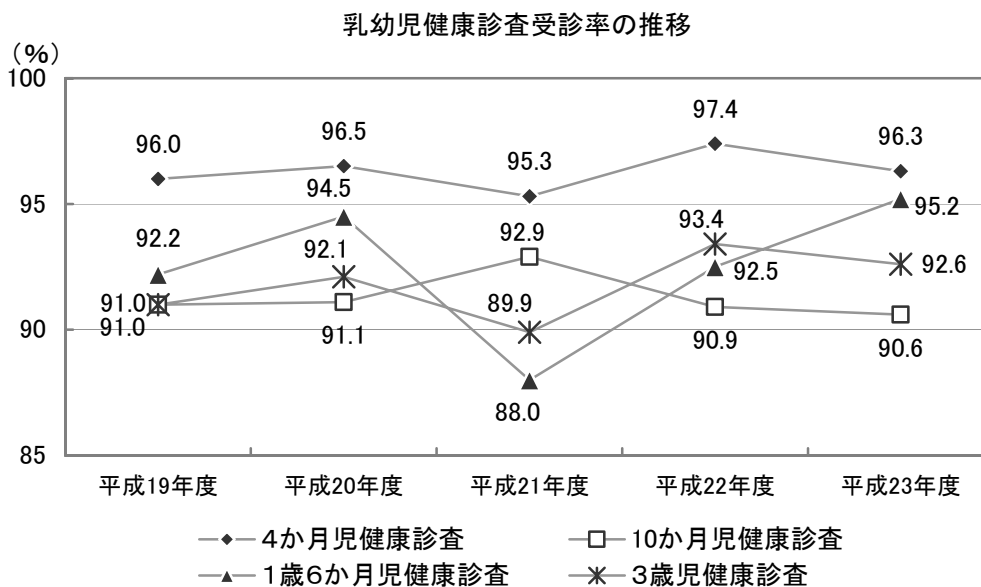


## 4 健診の状況

### (1) 乳幼児健康診査の状況

乳幼児健康診査は、乳幼児の発育・栄養状態・運動状態・精神発達の状況を観察することで、疾病の早期発見に努め、こどもの健やかな成長と保護者の育児を支援することを目的に実施しています。

平成 23 年度の乳幼児健康診査の受診率は、各年齢の健康診査において9割以上となっており、4か月児健康診査における受診率は、96.3%と最も高くなっています。



資料：芦屋市の保健事業概要

乳幼児健康診査の状況（平成 23 年度）

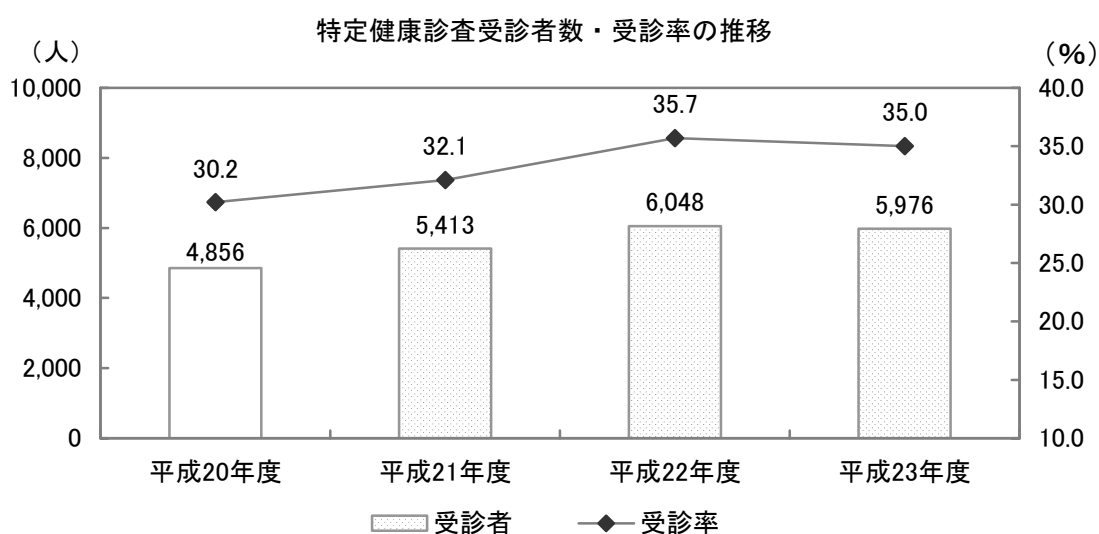
	対象者（人）	受診者（人）	受診率（%）
4か月児健康診査	810	780	96.3
10か月児健康診査	868	786	90.6
1歳6か月児健康診査	875	833	95.2
3歳児健康診査	914	846	92.6

資料：芦屋市の保健事業概要

## (2) 特定健康診査の状況

平成20年より、生活習慣病\*の主な要因と言われるメタボリックシンドローム\*対策として、40歳～74歳を対象とした特定健康診査\*が導入されました。

特定健康診査\*の受診者数は平成20年度以降増加傾向にあり、平成23年度は5,976人となっています。受診率は平成23年度に若干下がったものの、平成20年度以降増加傾向となっています。



資料：保険医療助成課

## (3) 後期高齢者医療健康診査の状況

後期高齢者医療\*健康診査の受診率は、平成20年度以降やや下がったあと、増加傾向にあり、平成23年度の受診率は30.5%となっています。

後期高齢者医療健康診査の状況

単位：人

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
対象者数	10,279	10,066	10,447	10,453
受診者数	3,123	2,661	2,917	3,191
受診率 (%)	30.4	26.4	27.9	30.5

健康高齢者：健康診査において、診察・肥満・血圧・肝機能・脂質・糖代謝・貧血・心電図の判定すべてにおいて、異常なしであった方

資料：芦屋市の保健事業概要



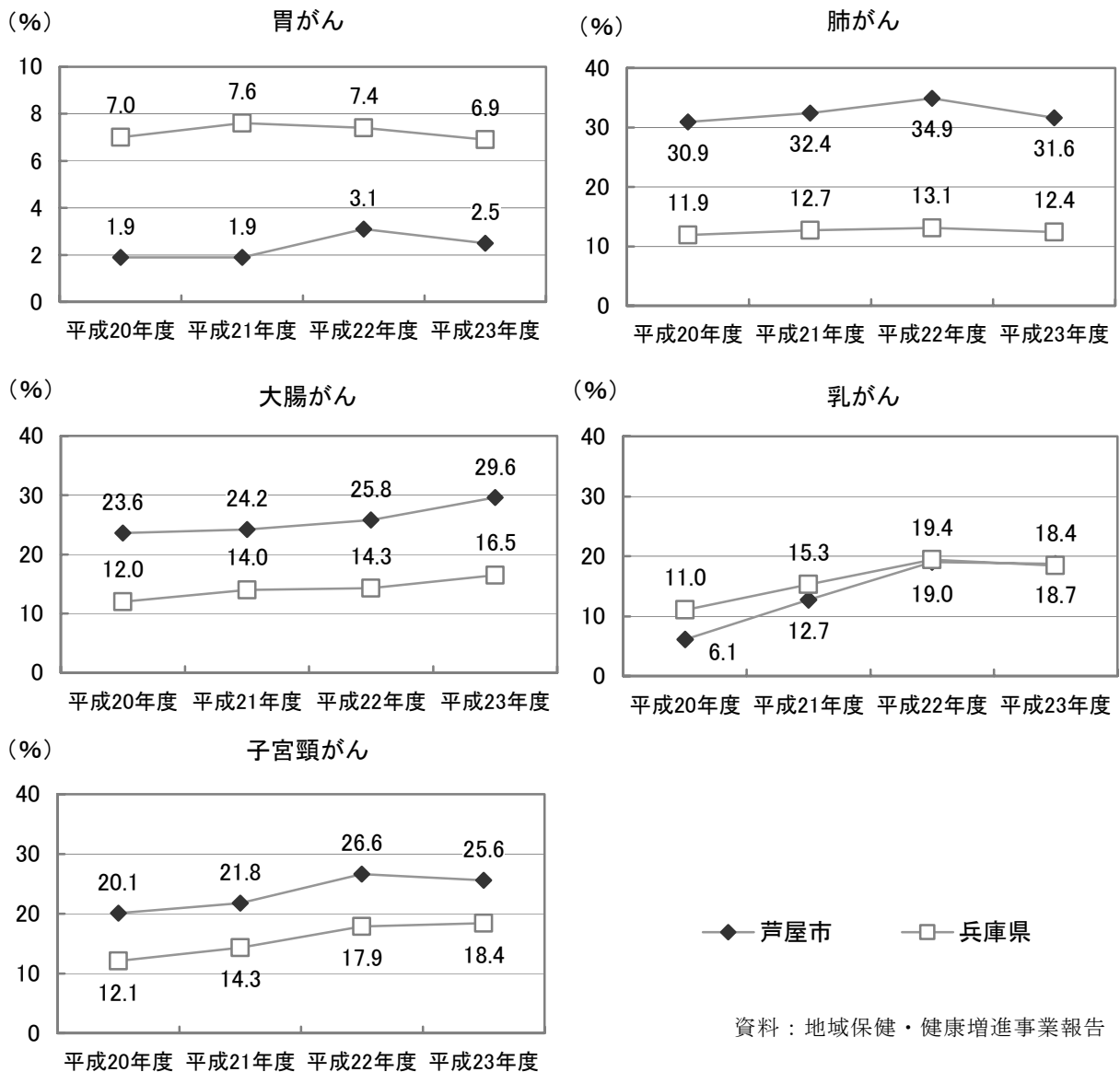


### (4) がん検診の状況

各種がん検診の中では、肺がん検診の受診率が最も高い状況です。

各種がん検診の受診状況は、大腸がんの受診率が年々高くなっています。なお、平成21年度から一定の年齢に達した女性に乳がん・子宮頸がん検診の無料クーポン券を、さらに平成23年度からは一定の年齢に達した男女に大腸がん検診の無料クーポン券を配布したことにより、受診率の上昇につながっていることがうかがえます。県と比較すると、平成23年度の本市の受診率は、胃がん以外の検診で県の平均値を上回っています。

各種がん検診の受診率の推移

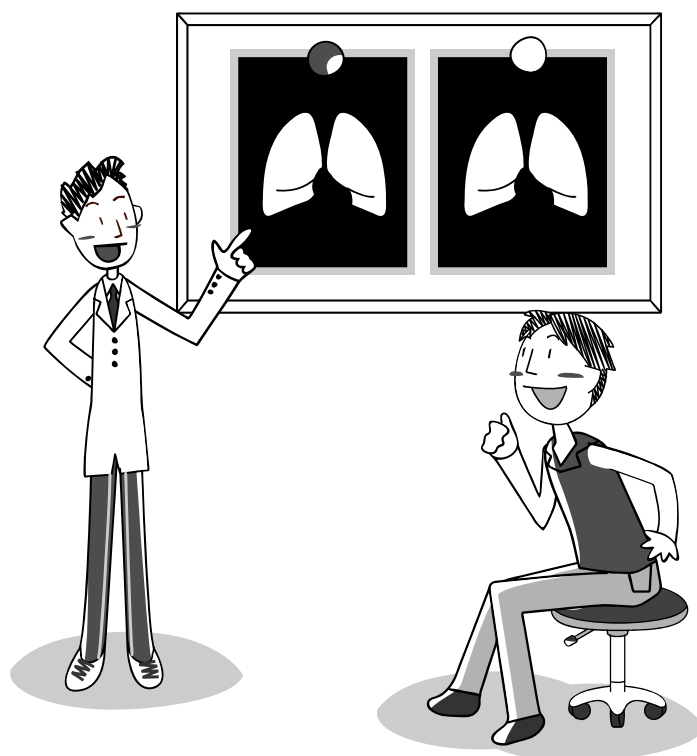


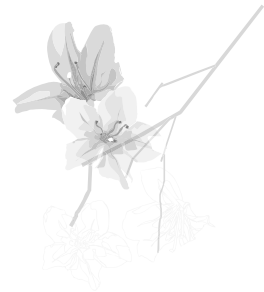
### 各種がん検診の受診者数の推移

単位：人

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
胃がん検診	471	493	781	724
肺がん検診	8,209	8,256	8,891	9,067
大腸がん検診	6,272	6,158	6,560	8,487
乳がん検診	669	2,317	3,465	3,768
子宮頸がん検診	2,249	5,303	6,475	6,548

資料：地域保健・健康増進事業報告





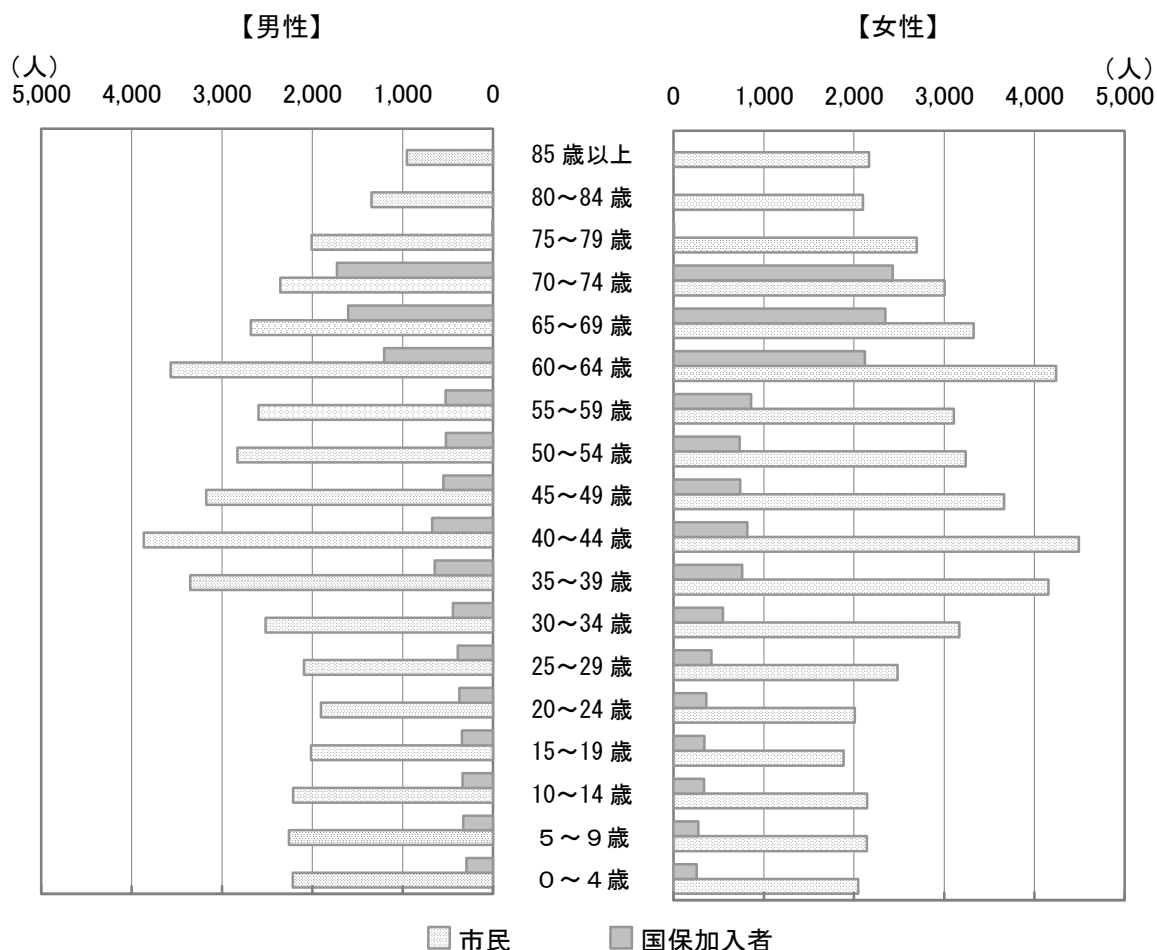
## 5 医療の状況

### (1) 国保加入者の状況

#### ① 年齢別国保加入者数と人口の比較

本市の国民健康保険加入者\*割合は、平成 23 年度で男性 22.7%，女性 25.6%となっています。年齢別では、退職を迎える 60～64 歳で加入率が高くなり、65 歳以上では男女ともに 6 割を超えています。

性別年齢別国保加入者数と人口の比較



資料：保険医療助成課（平成 24 年 3 月末現在）

性別年齢別国保加入者数と人口の比較

単位：人

	男性		女性	
	市民	国保加入者	市民	国保加入者
85歳以上	954	0	2,165	0
80～84歳	1,345	0	2,100	0
75～79歳	2,007	4	2,695	8
70～74歳	2,353	1,727	3,004	2,430
65～69歳	2,681	1,603	3,327	2,347
60～64歳	3,568	1,205	4,241	2,121
55～59歳	2,595	525	3,109	861
50～54歳	2,829	520	3,237	733
45～49歳	3,173	548	3,665	739
40～44歳	3,864	675	4,491	817
35～39歳	3,350	645	4,156	760
30～34歳	2,519	442	3,169	548
25～29歳	2,093	389	2,484	419
20～24歳	1,906	371	2,011	361
15～19歳	2,013	343	1,887	341
10～14歳	2,212	337	2,144	339
5～9歳	2,259	331	2,140	274
0～4歳	2,216	293	2,047	257
合計	43,937	9,958	52,072	13,355

資料：保険医療助成課（平成24年3月末現在）

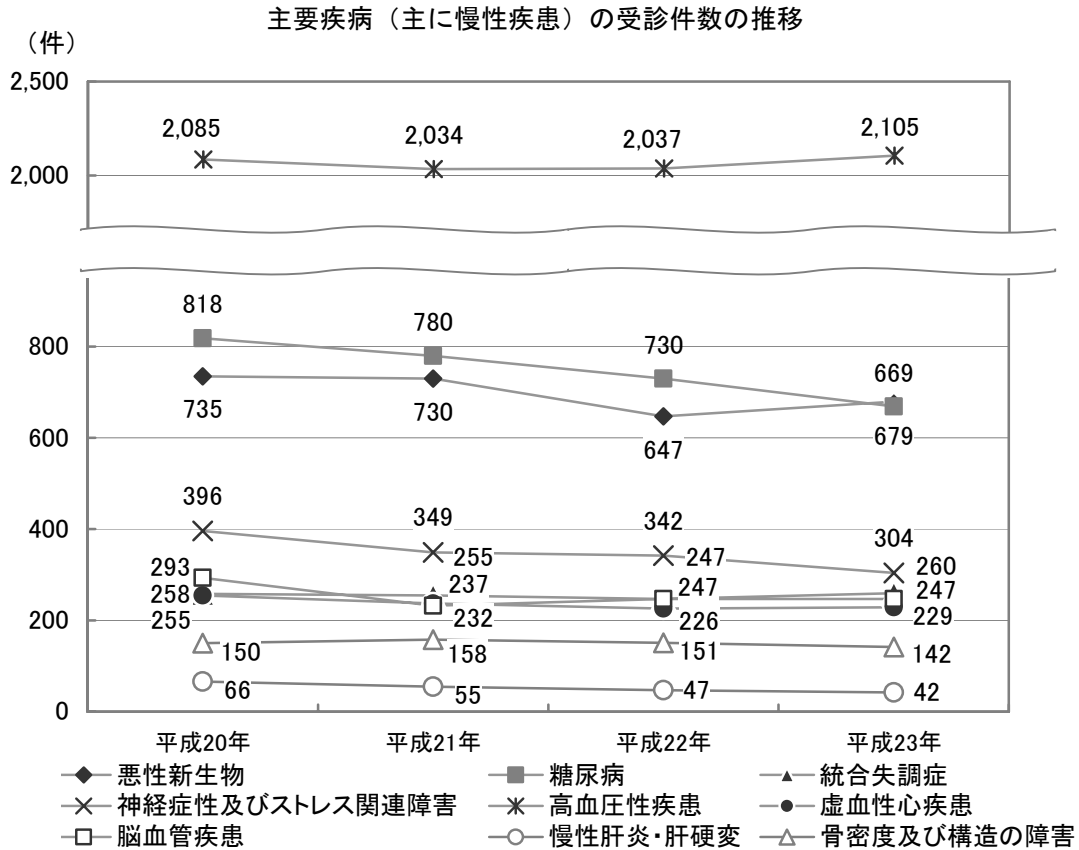






## ②生活習慣病に関わる主要疾患の受診状況（芦屋市国民健康保険）

主要疾患の受診件数をみると、平成23年においては高血圧性疾患が多く、次いで糖尿病<sup>\*</sup>、悪性新生物<sup>\*</sup>と続いています。平成20年以降の推移をみると、悪性新生物<sup>\*</sup>、糖尿病<sup>\*</sup>は減少していますが、高血圧性疾患は横ばいに推移しています。



主要疾病（主に慢性疾患）の受診件数の推移

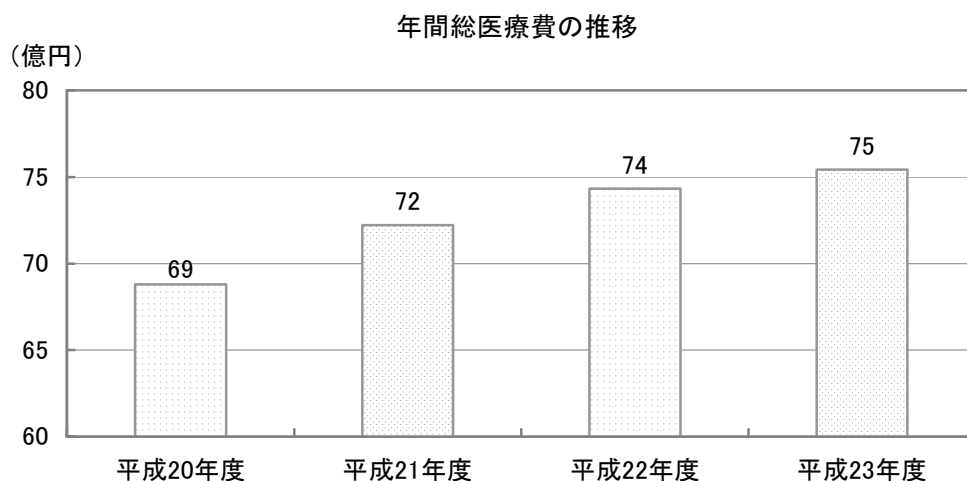
単位：件

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
悪性新生物	735	730	647	679
糖尿病	818	780	730	669
統合失調症	258	255	247	260
神経症性及びストレス関連障害	396	349	342	304
高血圧性疾患	2,085	2,034	2,037	2,105
虚血性心疾患	255	237	226	229
脳血管疾患	293	232	247	247
慢性肝炎・肝硬変	66	55	47	42
骨密度及び構造の障害	150	158	151	142

資料：疾病分類統計

### ③医療費の推移（芦屋市国民健康保険）

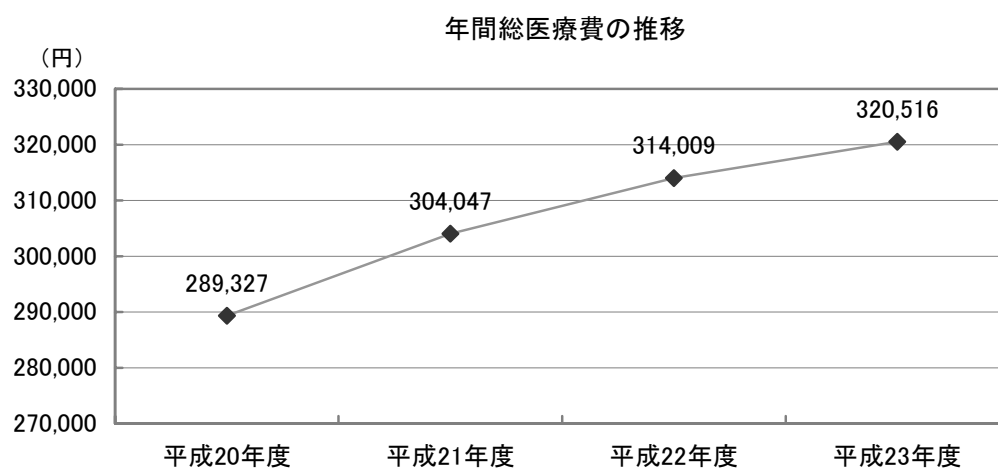
国民健康保険の医療費は、平成20年度から増加を続けており、平成23年度には約75億円で、平成20年度に比べて約6億円増加しています。



資料：保険医療助成課

### ④一人あたりの年間医療費の推移（芦屋市国民健康保険）

一人あたりの年間医療費は、平成20年度から増加を続けており、平成23年度には320,516円となっています。



資料：保険医療助成課





## (2) 後期高齢者医療の状況

後期高齢者医療<sup>\*</sup>の被保険者数は増加を続けており、これに伴い保険給付費も増加しています。一人あたりの保険給付費は増加していますが、その伸び率の推移をみると、減少傾向がみられます。

単位：人，円

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
平均被保険者数 (3月－2月) 〈20年度は4－2月平均〉	9,753	10,159	10,576	10,998
保険給付費 〈20年度は4－2月の 12か月換算値〉	7,637,907,070	8,529,770,779	9,177,406,708	9,750,830,353
保険給付費伸び率の 推移(対前年比)		11.68%	7.59%	6.25%
一人あたりの保険給付費	783,134	839,627	867,758	886,627
一人あたりの保険給 付費伸び率の推移(対 前年比)		7.21%	3.35%	2.17%

資料：兵庫県後期高齢者医療広域連合提供資料

\* 平均被保険者数を端数処理していますので、一人あたりの保険給付費が合わない年度があります。

